資料１－２別紙

（４）生物相（植物相、動物相）

①　植物相

ｉ　維管束植物

大台ヶ原は、近畿では数少ない多くの種類の植物が生育している地域である。東大台のトウヒ群落の林床には、イトスゲ、コミヤマカタバミといった亜高山帯に生育する植物が見られる。西大台にはミズナラ、ヒメシャラ等、その沢沿いには、トチノキ、ヤマシャクヤク等の冷温帯に生育する植物が見られる。大台ヶ原は、よく霧がかかる多湿な環境であるため、大木の樹幹にはスギラン、ヤシャビシャク等の着生植物が生育している。また、大蛇嵓等の岩場には、コウヤマキ、ミヤマビャクシン、オオミネコザクラ（写真１－１－９）といった岩崖性植物が見られる等、これまでに維管束植物 121 科 895 種、そのうち種子植物 100 科 695 種、シダ植物 21 科 200 種が記録されている。

写真１－１－９　オオミネコザクラ

ii　蘚苔類

大台ヶ原は、日本有数の多雨地帯で、非常によく霧がかかる多湿な環境であるため、林内の倒木上にはミヤマクサゴケ、イワダレゴケ、タチハイゴケ等多くの蘚苔類が生育している。これまでに本地域では、蘚類 41 科 273 種、苔類 28 科 170 種が記録されている。

②　動物相

ｉ　哺乳類

本地域は紀伊山地の核心部に当たり近畿地方においては哺乳類の種の多様性が高い場所として注目されてきた。ツキノワグマやニホンカモシカ、ニホンジカ等の大型哺乳類を始め、国の天然記念物にも指定されているヤマネや分布上注目されるヤチネズミ、クロホオヒゲコウモリやノレンコウモリ等のコウモリ類、合計７目 15 科 37 種が記録されている。

ii　鳥類

ルリビタキ、メボソムシクイ、ビンズイ等主に中部地方以北で繁殖する鳥の西日本での数少ない繁殖地の１つとなっている（江崎・和田、2002）。これまでに 11 目 32 科 97 種が記録されている。

iii　爬虫類

大台ヶ原においては爬虫類の種数は多くないものの、シマヘビ、ジムグリ、アオダイショウ、ヤマカガシの１目１科４種が今回の調査で確認されているほか、文献上の記録を含めるとカナヘビを含めた合計２科５種が記録されている。

ⅳ　両生類

両生類では大台ヶ原がタイプ産地となっているオオダイガハラサンショウウオやナガレヒキガエル等２目５科６種が記録されている。大台ヶ原では沢の最上流部で細流及び伏流部が多く、現地調査の結果、オオダイガハラサンショウウオ（写真１－１－１０）は水面が認められる細流部まで繁殖に利用し、ナガレヒキガエルは比較的水量が豊富な場所を繁殖に利用していること等が明らかになっている。

写真１－１－１０　オオダイガハラサンショウウオ

ⅴ　昆虫類・クモ類

昆虫類は種類が多いため全貌は明らかになっていないが、近畿地方においてエゾハルゼミやトウヒツヅリヒメハマキ等の北方系の種が顕著な地域として注目される。また、大台ヶ原を代表に紀伊半島の山地にしか産しない種として、オオダイルリヒラタコメツキ、セダカテントウダマシ等があげられる。加えて、大台ヶ原がタイプ産地であり、その名に「オオダイ」を冠している種も少なくない。今回の調査でもこれまで未記載で大台ヶ原地域に固有と考えられる土壌性のハネカクシ科甲虫や地表性のヨリメグモ科のクモ（写真１－１－１１）等が新たに発見され記載された。

写真１－１－１１　オオダイヨロイヒメグモ

ⅵ　魚類

大台ヶ原の渓流は、東ノ川の源流部に位置し、東の滝、中の滝、西の滝（西の滝より上流部は逆川）により、それぞれ下流とは隔離された流域となっている。天然遡上による魚類の生息の可能性は低いが、滝より上流の流域にも過去に放流されたと思われるアマゴが生息している。なお、大台ヶ原を含む東ノ川の全流域にアマゴの漁業権が設定されているとともに、大台ヶ原の渓流は禁漁区域となっている。

（２）野生動植物の生息状況と保全上注目するべき種

現在、大台ヶ原の森林には、オオダイルリヒラタコメツキ、オオダイガハラナミハグモといった大台ヶ原を含む紀伊半島の固有種やモリアブラコウモリ、ノレンコウモリといった環境省や奈良県版のレッドリスト・レッドデータブック掲載種等希少な種が多く見られる。

しかし、ニホンジカの採食等の影響による森林生態系の荒廃により、メタカラコウといった沢筋に生育する植物の減少やコマドリの生息場所が減少する等、これら保全上注目すべき種の生育・生息に影響を生じさせている。一方で、今期調査を通じ紀伊半島における分布が限定的で生物地理学上も注目されるヤチネズミや、今回の調査で発見された新種で固有種の可能性が高いハネカクシ科甲虫の *Leptusa taichii* とオオダイヨロイヒメグモは、トウヒ―コケ密型植生からのみしか発見されておらず、野生動植物の生育・生息環境からもトウヒ―コケ密型植生の重要性が確認されている。

なお、近年日本各地で外来種が引き起こす様々な問題が注目され、生物多様性や生態系の保全上大きな課題となっている。大台ヶ原においては植物ではシロツメクサ、ベニバナボロギク、オニウシノケグサ、鳥類でソウシチョウといった外来種が確認されているものの、アライグマ等、近畿地方で分布域を拡大しつつある多くの外来種は侵入していない。現段階では外来種の割合は少なく、在来の動植物相に与えている影響は小さいものと考えられるが、今後も継続的に外来種の侵入に注意することが重要である（表３－１－１）。

表３－１－１　大台ヶ原において、現地調査及び文献で確認されている動植物

分類群	確認種数	希少種			国外外来種
		環境省 RL	近畿 RDB	奈良県 RDB	
動物					
哺乳類	15 科 37 種	11	－	17	0
鳥類	32 科 96 種	8	41	46	2
爬虫類	2 科 5 種	0	－	3	0
両生類	5 科 6 種	1	－	2	0
魚類	未調査	未調査	－	未調査	未調査
昆虫類	未集計	3	－	21	0
植物					
種子植物	100 科 695 種	33	97	180	23
シダ植物	21 科 200 種	8	37	56	0
蘚類	41 科 273 種	7	－	－	－
苔類	28 科 170 種	3	－	－	－

（３）森林生態系保全再生に係るこれまでの取組と評価

ここでは、植生タイプごとの森林の再生ポテンシャルの評価を行うことにより、今次計画における植生タイプごとの基本的な取組の考え方を明らかにするとともに、第１期計画に基づく取組の成果を評価することで、第２期計画における課題の設定につなげていきたい。

①　森林再生ポテンシャルの評価

大台ヶ原の森林再生を実施するにあたって、平成 14 年（2002 年）～平成 15 年（2003 年）に実施した植生調査を基に、森林の上層の相観植生と下層植生（ササの種類と密度、コケの密度）に着目して代表的な森林生態系を示す７つの植生タイプを抽出し（表３－１－２）、それぞれの植生タイプごとに適切な保全再生手法を検討するため、森林再生ポテンシャルを評価した（表３－１－３）。

鳥類調査結果における大台ヶ原全体でのテリトリー数については、コマドリ・アカハラが減少し、キクイタダキ、ウグイスが増加する等の変化が見られた。（表３－１－１１）

また、ルリビタキ、ヒガラ等の森林性鳥類は、正木峠周辺において亜高山性針葉樹林が残っていた昭和 44 年（1969 年）とミヤコザサ草地に変化した現在の個体数を比べると減少が顕著であった（図３－１－１３）。

表３－１－１１　鳥類調査におけるルート別の確認テリトリー数

		東大台						東大台計		西大台						西大台計		計	
		ルート1（正木峠）		ルート2（中道）		ルート3（日出ヶ岳）				ルート5（七ツ池）		ルート6（大台山の		ルート7（松浦武四郎）					
種名	主な繁殖場所	ミヤコザサ		トウヒ-コケ密		トウヒ-ミヤコザサ		H15	H19	ブナ-スズタケ疎		ブナ-ミヤコザサ		ブナ-スズタケ密		H15	H19	H15	H19
		H15	H19	H15	H19	H15	H19			H15	H19	H15	H19	H15	H19				
アカハラ	樹上							0	0	9						9	0	9	0
キクイタダキ	樹上		2		4		11	0	17							0	0	0	17
アオゲラ	樹洞							0	0	1						1	0	1	0
アカゲラ	樹洞					1		1	0	1	1					1	1	2	1
キビタキ	樹洞							0	0	1						1	0	1	0
ヒガラ	樹洞	1	3	4	5	3	6	8	14	9	5	5	11	3	6	17	22	25	36
ヤマガラ	樹洞	1					4	1	4	3	2		5		5	3	12	4	16
シジュウカラ	樹洞	1	3		4			1	7	7	3		4			7	7	8	14
ゴジュウカラ	樹洞							0	0		4		2			0	6	0	6
キバシリ	樹洞			1		1		2	0							0	0	2	0
ウグイス	やぶ		3				7	0	10				3			0	3	0	13
ビンズイ	林床の小さな段差や窪み等		1					0	1							0	0	0	1
ミソサザイ	林床の小さな段差や窪み等	1	3	10	11	7	11	18	25	12	7	5	10	8	6	25	23	43	48
コマドリ	林床の小さな段差や窪み等			2				2	0	5						5	0	7	0
コルリ	林床の小さな段差や窪み等							0	0			5	2	1		6	2	6	2
オオルリ	林床の小さな段差や窪み等			5	5	5		10	5	11	3	1	5	5	3	17	11	27	16
ルリビタキ	地上	3	7	12	5	10	3	25	15				6		4	0	10	25	25
メボソムシクイ	地上			7	4	6		13	4							0	0	13	4
テリトリー確認種		5	7	7	7	6	6	18	20	10	7	4	9	4	5	18	21	36	41
同テリトリー数		4	11	36	25	28	14	68	50	28	10	11	23	14	13	53	46	121	96

※　数字はテリトリー数

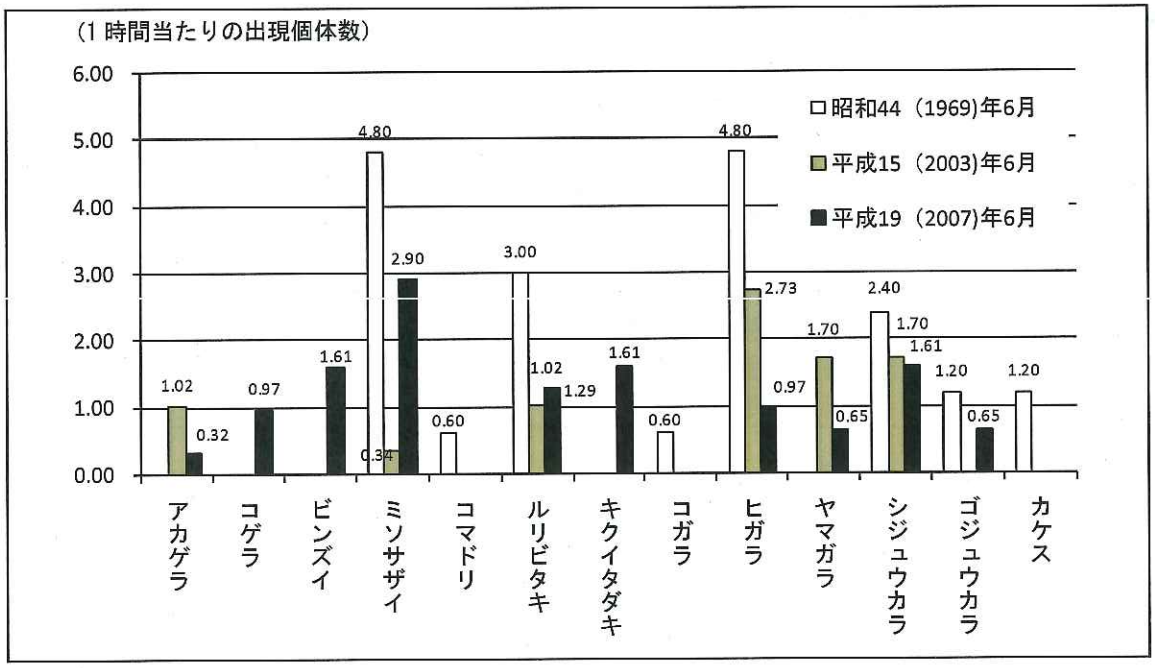

図３－１－１３　正木峠周辺のルート（現在ミヤコザサ草地）における鳥類の過去との比較

昆虫類等調査では、地表性甲虫類がオオクロナガオサムシ、オオダイヌレチゴミムシ等 29 種、大型土壌動物がチャマルチビヒョウタンゴミムシ等 68 種、ガ類がキベリネズミホソバ、エゾシロシタバ等 157 種、食材性昆虫類がムナミゾハナカミキリ、トドマツカミキリ等 66 種、クモ類がカイホツズキンヌカグモ、オオダイヨロイヒメグモ等 94 種について確認し、大台ヶ原において初めて多くのサンプルに基づく定量的な調査データが得られた。